

# 林業の認知度向上のためのイベントの創造・実施

群馬県立農林大学校 書上 陸斗

## 1 課題を取り上げた背景

林業の認知度は低いと感じています。実際に私も、「林業」自体を知らない人に多く出会いました。林業は、育成した樹木を伐採して木材資源を生産する他にも、森林の維持管理や環境保全などの重要な役割を果たしています。これからの日本に、林業を発展させていく若い技術者は欠かせません。そのため1人でも多くの若者に林業を知ってもらい、職業選択の際に候補の1つとなるように浸透させることが、担い手を増やす第一歩だと考えました。

## 2 具体的な取組

本調査では、「林業教室」と題して、林業を題材にした体験型イベントを創造・実施することで、職業「林業」の認知度向上に取り組みました。イベントは林業の役割と重要性を伝える「知識講座」と、チェーンソー競技の実演を交えた「体験講習」の二部構成で、農林大学校の学生が対象施設に出向いて実施しました。その体験前後で、参加者にアンケート調査を行い、イベント開催の効果を検証しました。

- (1) 実施施設 第1回 群馬県立利根実業高等学校で1年生75人を対象に実施  
第2回 群馬県立農林大学校文化祭「第41回榛の木祭」で一般客40人を対象に実施
- (2) 実施期間 2024年3月～11月（イベントは第1回を7月12日、第2回を11月9日に実施）
- (3) 対象者 高校生～一般の方
- (4) 使用道具 チェーンソー、くさび、刈払機、個人装備、丸太、馬型丸太設置台、切り株型丸太設置台、ハンマー、フェリングレバー、チルホール、トングなど。

### (5) 実施内容

#### ア 意識調査

林業を学ぶ森林コースの1・2年生の学生を対象に、林業に対する意識調査を実施しました。質問は、「林業の存在を知った時期」と「林業関連の仕事に就きたいと思った時期」の2つです。

#### イ イベント「林業教室～チェーンソー実演と体験会～」の実施

イベントのプログラムは、まず、メンバーの紹介をし、林業の存在と役割について知って、興味を持ってもらうことを目的とした「知識講座」を行いました。その後、野外に出て、対戦形式でチェーンソー競技の実演を行い、迫力あるチェーンソーの音と共に森林コースメンバーの技を見学してもらう「体験講習」を行いました。企画では、林業現場で実際に使われている道具を紹介し、手で持ってもらうなど、体験を重視した参加型イベントを創造しました。最後に、森林コースの紹介と参加者全員で写真撮影を行いました。

#### ウ 体験前後で林業に対する理解度などのアンケート調査

##### (ア) 回答数の変化

調査項目は、林業の仕事、また、イベント内容を理解してもらえたかを判定するための「理解度」、林業の仕事や役割、重要性について、イベントを通して興味を持ってもらえたかを判定するための「興味・関心度」、イベントが要因で就職を視野に入れて考えてもらえたかを判定するための「就職希望度」の3つです。体験前後で同じ項目を実施しました。また、4段階で選択肢を設け、各項目で選択した人数の変化を調査することで、イベントの成果を数値化しました。

##### (イ) 得点（平均）の比較

参加者の回答から、調査項目の得点（平均）を算出し体験前後の比較を行いました。

#### エ マニュアルの作成

体験後のアンケートから、イベントが持つ影響力を読み取り、会場の様子と参加者の感想から総合的にイベント開催の効果を検証しました。その上でポイントや改良点をまとめ、森林コースの後輩や林業に携わる団体に提供する「実施マニュアル」を作成しました。

### 3 取組の結果

#### (1) 意識調査

森林コースの1・2年生を対象に行った林業に対する意識調査の結果を図1に示します。林業は、認知度の低い職業であるため、低年齢から親しみを持ってもらうことが重要であると考えました。

また、結果から質問1と2いずれも「高校生」が高い割合を示しました。そのため、イベントを行う対象として、高校生が有効であると判断し、第1回は高等学校での実施が決定しました。

#### (2) イベント「林業教室～チェーンソー実演と体験会～」の実施

イベントでは、予定していた全てのプログラムを実施することができました。

##### ア メンバー紹介

イベントの競技選手・スタッフである森林コースの学生6人の思いやエピソードなどを織りまぜて紹介し、興味を持って貰えるように実施しました。

##### イ 知識講座

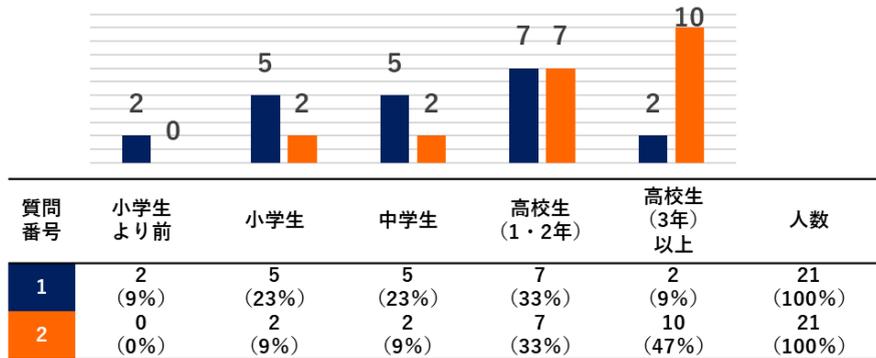
第1回は会議室、第2回は野外で「知識講座（図2）」を実施しました。「水でつながる山・海・空」、「山のしごと『リンギョウ』」と題して、自然と森林の関係から、それらを守る林業の重要性を伝える講習を行いました。

##### ウ 体験講習（競技）

「体験講習」のチェーンソー競技実演（図3）では、森林コースの学生が日々練習を重ねてきた技を1競技2人で対戦することで、チェーンソーの迫力ある技術を披露しました。

##### エ 体験講習（企画）

「体験講習」では、実際に参加者に体験してもらうことを重視した参加型の企画（図4）を実施しました。第1回は、雨天のため、体験講習の会場は、あらかじめ検討していた屋根のある倉庫での



質問1 林業の存在を知った時期

質問2 林業関連の仕事に就きたいと思った時期

(対象：群馬県立農林大学校・森林コース1・2年生21人)

図1 林業に対する意識調査結果



図2 知識講座



図3 体験講習（競技）

実施となりました。

オ 森林コース紹介・記念写真撮影

林業に興味を持った人の進路先として「森林コース紹介」を行い、最後に、参加者全員で「記念写真撮影」を実施しました。

(3) 体験前後で林業に対する理解度などのアンケート調査

ア 回答内容の変化

回答内容の変化(図5)では、イベントに参加して、チェーンソー実演の見学や、実際にチェーンソーを持つ体験をして、林業を知ったことで、第1回・第2回の全ての項目で多くの人の得点が上昇しました。重視していた「認知度」では、第1回・第2回共に「あまり知らない人」「全く知らない人」が、体験後では0人になり、全ての参加者に林業を認知してもらえたことが確認できました。第1回の「興味・関心度」では、「全く知らない人」が0人になり、全ての参加者に興味・関心を持ってもらうことができました。



図4 体験講習(企画)

番号	調査内容	回答(数字=得点)	第1回(利高75人)		第2回(榛祭40人)	
			体験前	体験後	体験前	体験後
1	理解度	4「かなり知っている」	1	40	9	16
		3「少し知っている」	25	34	13	23
		2「あまり知らない」	40	0	13	0
		1「全く知らない」	9	0	5	0
2	興味・関心度	4「とてもある」	5	27	12	15
		3「少しある」	36	45	19	19
		2「あまりない」	29	2	7	1
		1「全くない」	5	0	1	3
3	就職希望度	4「とても思う」	0	0	9	7
		3「少し思う」	8	29	8	15
		2「あまり思わない」	46	35	13	13
		1「全く思わない」	21	10	10	3

図5 体験前後のアンケート結果<回答内容の変化>

イ 得点(平均)の比較

得点(平均)の比較(図6)では、第1回の体験前では林業の認知度が低く、「理解度」「興味・関心度」「就職希望度」の3項目で得点平均が低かったが、イベント参加後にチェーンソー実演や体験を通じて林業への理解が深まり、得点平均が向上しました。

しかし、第2回では対象が林業や農林大学校に係る参加者が多かったため、体験前の得点平均は高かったものの、上昇量は前回よりも低かったです。



図6 体験前後のアンケート結果<得点(平均)比較>

(4) マニュアルの作成

参加者のアンケートから、体験後にチェーンソーの重さ、そして林業の現状と重要性を重く捉えつつ、個人で考えを深めていることが分かりました。競技の実演では、くさび模擬体験(図7)など体験を重視した企画の時間を多く取り



図7 くさび模擬体験



図8 切断面を触る参加者

入れたことで、チェーンソーの切断面を触ったり(図8)、チェーンソーを構えてみたりなど、積極的にイベントに参加する様子が見られました。参加型のイベントは、実演や実物を使って行うと強い印象を与えることができる、ということが、参加者の反応から読み取ることができました。



図9 競技後のインタビュー

また、競技選手へのインタビュー(図9)を通して選手に興味を持ってもらったり、道具の解説を学生が行ったりすることで、より身近に感じてもらったことが今回のイベントの工夫の一つです。次回につなげるために、今回のポイントや改良点をまとめた「実施マニュアル」(図10)を作成しました。



図10 実施マニュアル

#### 4 まとめ

- (1) 今回のイベントは、林業の認知度向上を主の目的として実施することより「林業」に触れてもらう時間がつくれたことが最大の成果です。初めてのイベントのため、企画・実施が非常に困難でした。対象施設や年齢に合わせた内容の設定とスライド制作、時間・人員構成の調整、打ち合わせを兼ねた事前挨拶など、想定していた以上に行うことが多かったです。  
第1回のイベントでは、雨が降っていましたが、雨天時の対応策を取っていたことで、屋根のある車庫を借りて対応することができました。イベントは、先生や友人のアドバイスを踏まえつつ、協力してもらうことで無事に開催することができました。ただし、企画・計画に時間を要し、イベントを数多く実施することができませんでした。対象施設によっては、十分な時間余裕をもって開催の検討・依頼を行うことが必要であると感じました。
- (2) 改善点として、十分な練習時間の確保と担当の分担制の導入が挙げられます。計画に多くの時間を費やしたため、その時間を競技や講座の練習に充てることで、より質の高いイベントを実現できると考えられます。また、主催者は全てに目を向ける必要があるため、監督役に徹し、他の協力者とともに各項目を分担して実施することが重要であると考えます。
- (3) イベントを実施する上で重要なのは、伝える姿勢です。林業に限らず、認知度の向上を目的としたイベントでは、講座・講習内容に加え、迫力やかっこよさなどの魅力をどのように表現して、何を伝えるか、ねらいを明確にして工夫を施すことで参加者にインパクトを与えることができます。開催者(選手やスタッフなど)の真剣に取り組む姿勢が、参加者の耳を傾けさせ、大きな効果を生むことを実感しました。
- (4) 今回の調査で、イベントが参加者の認知度向上に与える効果が検証されました。このようなイベントを通じて、一人でも多く、林業に携わる人を創り出したいです。立案・準備・実施時の参考として作成した「実施マニュアル」を森林コースの後輩や、林業に携わる団体に提供することで、今後、各地で林業のイベントを継続して展開してほしいです。